

獨協医科大学埼玉医療センター眼科紹介

獨協医科大学埼玉医療センター眼科 講師 忍田 栄 紀

歴 史

当院は1984年6月に獨協医科大学越谷病院として設立され、病院発足当時は臨床15科からなる237床の病院でした。その後、徐々に病院の規模は大きくなり、2017年11月には隣接地に新棟が完成したことで200床の増床となり、現在は923床の埼玉県最大規模の病院となりました。新棟完成に合わせて、名称を「獨協医科大学埼玉医療センター」に変更し、病院として新たなスタートを切りました。

眼科に関しては、初代小原喜隆教授のもとで開院当初から診療を開始し、その後、2代目筑田眞教授に引き継がれ、2015年4月からは現教授の町田繁樹先生が3代目教授に就任され現在に至ります。

医 局

当医局は来年35年目の節目の年で、同窓会会員は70名になっています。現在の医局員は教授2名、講師2名、助教11名です。関連病院は主に埼玉県内の病院で、常勤医、非常勤医を派遣しております。

診 療

当院は埼玉県の基幹病院として近隣の病院や診療所から多数の患者をご紹介いただいております。2016年度の外来患者数は46629人、入院患者は1859人でした。

外来は、月から土曜日（土曜日は第3以外）に4～7名の医師が新患患者を担当し、眼科専門医以上の医師が診断医として最終的に診察いたします。外来で治療ならびに経過観察を受ける患者は専門外来で診療を受けます。当院の専門外来には網膜硝子体疾患外来、神経眼科外来、緑内障外来、水晶体外来、斜視・弱視外来、前眼部疾患外来、涙道疾患外来、眼窩外来、腫瘍外来、硝子体注射外来、ロービジョン外来があります。ほぼすべての眼科疾患に対応しており、視力改善が困難な患者へのロービジョンケアも積極的に行っております。

入院は手術目的の患者が多く、定時手術は月曜日から金曜日に行っております。その他緊急入院、緊急手術患者には随時対応しております。2016年度の年間手術件数は白内障手術1601件、網膜硝子体手術666件、斜視手術44件、眼窩底骨折整復術7件、涙嚢鼻腔吻合術34件、緑内障手術104件、眼瞼下垂手術76件、網膜復位術58件、眼瞼・眼窩腫瘍手術145件、など多数の手術を多岐にわたり行っております。新棟が完成し、眼科専用手術室が常時2列に整備されたことから今後は更なる手術件数増加を見込んでおります。



新棟外観



医局にて

研究

当科で行っている代表的な研究には、町田教授を中心とした視覚機能学の研究、林助教・林非常勤講師を中心とした水晶体の基礎的研究、鈴木教授を中心とした神経眼科の臨床的研究、武藤講師を中心とした前眼部疾患の臨床的研究、などがあります。研究の概要や実績に関しましては当科ホームページをご参照いただけますと幸いです。

また、2016年度から当院にも大学院が開設されました。研究に興味がある先生は大学院に入学し社会人大学院生として臨床に関わりながら研究を進めてもらいます。具体的には、外勤日を除いた勤務日の午後は臨床 duty をフリーとし、研究に専念できるようにしています。

教育

将来の眼科医療のためにも、当医局において教育は最重要課題と考えています。そのため入局直後から若手医師は教授や指導医のもと積極的に外来、手術、病棟診療に参加します。外来ではその日の診断医（専門医以上の上級医）の監修のもと新患の間診を取り、疑うべき疾患を考え、必要な検査をオーダーします。時には自身で検査も行い検査手技も身に付けます。検査と診察の結果から診断をつけ、今後の治療方針がたてられるように診断医が指導を行います。その後は上級医のサポートのもとできるだけ外来での経過観察も行います。その中でレーザーや外来処置、外来手術などの手技も身に付けていきます。また、白内障手術は外来にて手術適応と診断した患者に対し、術前検査、手術説明、入院予約、手術申し込みなどを行い、入院中は主治医となり手術にも参加します。手術は当然上級医の監修・指導のもとに行いますができるだけ執刀します。定期的に豚眼での手術練習も行っていますが、正しい指導のもと実際の手術を多く経験することで効率的な手術上達につながっています。また、当院は埼玉県基幹病院として非常に多くの症例を経験できることが大きな特徴です。ゆえに白内障手術以外にも網膜硝子体手術や緑内障手術はもちろん、眼窩底骨折整復術なども含めたほとんどすべての眼科手術を幅広く行っております。若手医師は教授をはじめとする、上級医執刀の様々な手術の助手に数多くついて臨床経験を積んでいきます。また、患者の主治医も担当し術前後の診察や経過観察を執刀した上級医とともに行うことにより、様々な症例に対する診断能力を向上させていきます。術後状態が安定せず苦慮する

症例もありますが、月曜午後には教授回診があり、随時指導も行われます。ある程度経験を積んだ後は網膜硝子体手術など、それぞれ興味のある分野の手術を習得していきます。多くの手術に携わりその手技を習得できることが当医局最大の魅力の一つです。このような術前から術後までの一貫した臨床教育により、多少の個人差はありますが入局1年後には基本的な検査・診断・治療ができるようになり、手術においては多くが白内障手術をやりきることができるようになっていきます。

また、毎週火曜日午後の医局カンファレンスでは、教授や上級医によるスライドや資料を使いながらのクルズスを行っており、特定の分野に偏ることのない眼科知識を無理なく吸収できるようにしています。そのほかにも英語論文の抄読会や症例検討会を行い、医局員の教育・知識向上に努めています。

最後に

実は意外にも埼玉県は、東京都（約1360万人）・神奈川県（約910万人）・大阪府（約880万人）・愛知県（約750万人）に次いで、約730万人を擁する全国で5番目に人口の多い県です。しかし眼科医の数は少なく人口当たりの数では全国で最も少ないとされています。当院はその埼玉県でも特に多くの症例が集まる基幹病院です。一眼科医としての責任は大きくなりますが、その分多くの臨床経験が積めるのは魅力です。医局員はやり甲斐を感じ、プライドを持って日々の仕事を行っています。新棟が完成し、ますます充実した設備の中、しっかりとした教育体制で様々な症例を数多く経験できる当院は眼科医として総合的に成長できる恵まれた環境です。埼玉はダサイと敬遠されがちですが、埼玉県は都会の良さと田舎の良さを両方兼ね備えたとても住みやすい街です。当院のある越谷市は都内へのアクセスもよく便利です。その上東京に比べ物価も安く、都会でありながら緑や公園も多く子育てにも適しています。眼科医として多くの臨床経験を積んでどこでも通用するような実力を付けたい、でもある程度は都会で住みやすい場所がいい、と思っている方にとっては穴場の病院です。仕事内容は充実していますが、医局員のプライベートも尊重し定時での仕事終了を心がけております。医局の雰囲気もよく、出身大学による垣根もありません。女性医師の働きやすい勤務環境も整備しております。当医局に少しでも興味を持たれた方がいらっしゃいましたらぜひ一度見学にいらっしゃって下さい。ご連絡をお待ちしています。